
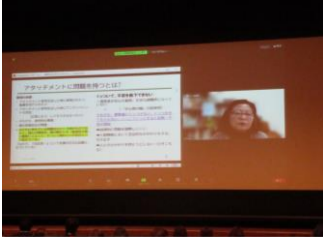



# 事業報告書

<p>令和3年度 第2回相談員研修「アタッチメント」                  第1部：アタッチメントと子どもの発達                  第2部：事例とともに考えるアタッチメント</p>	
日時	令和3年12月23日(木) 9:30~12:30
目的	子どもの発達において重要視されるアタッチメントを正しく理解し、事例をもとにアタッチメントに着目した対応の仕方等を考えることを通して、支援者の資質向上、延いてはより充実した社会資源づくりを目指す。
対象	支援機関で相談業務に携わる方、関心のある方
主催	沖縄県・公益財団法人おきなわ女性財団
講師	第1部：中尾 達馬氏(琉球大学教育学部 准教授) 第2部：数井 みゆき氏(茨城大学教育学部 教授) ※オンライン出演
会場	沖縄県男女共同参画センターていりる 1Fホール
定員	90名 (申込者数：87名)
参加者	73名
講演内容(概要)	<p>第1部でアタッチメントとはなにか等の基礎を、第2部では支援現場での事例にみるアタッチメントについて学び、その後、質疑応答・まとめを行った。</p> <p><b>第1部：アタッチメントと子どもの発達(中尾 達馬氏/琉球大学教育学部 准教授)</b>                  講師は、アタッチメントは「きずな」に例えられるとし、「きずな」を感じさせる写真を紹介しながら、アタッチメントとは「付着」が本来の定義であること、子どもは不安や恐れを感じた時に人にくっつく傾向があり、その時、大人がしっかり受け止めて送り出すことを何度も何度もくりかえすことで信頼関係が生まれ安定したアタッチメントが形成・維持されると述べた。                  また、アタッチメントは不安や恐れを感じた時の子どものネガティブな感情をニュートラルに戻す、これがいわゆる安心感であり、安心した子どもは自発的に探索行動をすること、養育者は子どもにとって安全な避難所、安心の基地である必要があり、アタッチメントとは依存とは異なることなどを紹介した。                  その後講師は、ストレンジ・シチュエーション法の動画を用い、アタッチメントの個人差は安定型、回避型、無秩序型などに分類され、安定的なアタッチメントは他の発達の側面に対し保護因子として働くこと等に触れながら、アタッチメントは書籍等でも学べるので貯金のように知識を増やしてほしいと結んだ。</p> <p><b>第2部：事例とともに考えるアタッチメント(数井 みゆき氏/茨城大学教育学部 教授)</b>                  講師は最初に、私たちは生まれながらに無意識のレベルで「くっつきたい」という思いを一生を通して持っていること、子どもは親との関係性、関わり方といった養育の来歴によりアタッチメントが上手くいったり、問題が生じたりすると述べた。                  また、アタッチメント欲求は大人にもあり、不安や恐怖を感じると他の大人に表象的にくっついて不安を低減しようとする、大人が子どもにアタッチメントを向けることは「役割逆転」となり、子どもの心に大きな傷を負わせるためしてはいけないことであると説明した。                  その後、講師は逆境的、親が悲嘆的という2つのケースを通して、複数人で支援する場合、子どもから見て、誰が自分に対して責任をもって担当しているのかを明らかにし、問題行動が起きた時はその一歩前に何があったのか、シークエンス、時間を順序立てて見ること等が重要であること、親に対しては社会的サポートが重要であることなどを解説した。                  更に、逆境的な環境で育った場合でも親以外でその子を気にかけて、サポートしてもらった子どもは後の発達が悪化しにくいとして「発達の構築物」という言葉を紹介した。                  講師は最後に、支援者もサポートが必要であることから、支え合える仲間とともに自分自身のアタッチメントニーズに目を向けストレスに対応しながら学修し続けて欲しいと受講者に熱いエールを贈った。</p>
参加者の声	<p>(自由記載欄より抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不安、恐れとアタッチメントの関係がよくわかりました。</li> <li>・事例を通して、アタッチメントについて理解度を深められた。愛着-アタッチメントを混同しがちだったが理解をし直すきっかけになった。</li> <li>・支援する際の新しい視点ができました。</li> <li>・とても納得出来る内容のお話でした。自身の職業的な立場での子どもとの関わり方、社会人としての在り方を考えさせられました。</li> <li>・アタッチメント、愛着障害とはこれまで自分の定義とは異なる意味であることが理解できたことが良かったと共に、さらに勉強することで本日の講義への理解が深まると感じた。</li> <li>・事例をもとにした説明が、とてもわかりやすく子どもの問題行動等の一歩前を見られるよう頑張りたいと思いました。</li> <li>・支援者として、母として、とても勉強になりました。ありがとうございました。</li> </ul>
講座写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>中尾 達馬氏</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>数井 みゆき氏 (オンライン)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>質疑応答の様子</p> </div> </div>